

特産農産物の紹介

金沢市では土づくりを基本に、安全で安心な野菜や果物の生産を推進しています。



野菜 すいか

【産地】
安原地区、粟五地区、
大徳地区、河北潟
【出荷時期】
6月中旬～8月上旬



【栽培の概要】
砂丘地を中心にスプリンクラーかん水が普及され、昭和40年代にかけて産地化が進んだ。栽培方法もビニールハウスや大型トンネル栽培と栽培の前進化が図られた。出荷方法は集出荷場での共同選果により、地元市場をはじめ、関西、中京の市場へ6月中旬から7月末まで出荷されています。
【品種】
大玉すいか 夏の訪れ（ハウス、トンネル用）、甘泉、縞無双HL、味きらら、恋の予感、マイティ21、ロイヤル甘泉（トンネル用）
小玉すいか 味のひみつ
【効用】
カロテン、ビタミンB1、B2、アミノ酸が多く含まれており、解熱、利尿作用があります。また、余分な塩分を排泄することから高血圧や動脈硬化にも効果があることが知られています。

野菜 だいこん

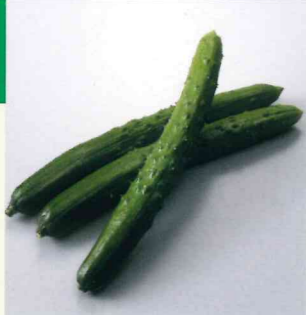
【産地】
安原地区、粟五地区、
大徳地区
【出荷時期】
9月下旬～11月中旬



【栽培の概要】
砂丘地を中心にスイカの後作として産地化が進んだ。当初は打木現助だいこんが主流であったが、昭和52年頃より、形状の揃いが良く、収量性も高く、病気にも強い総太系のだいこんに変わり、現在に至っています。出荷方法は集出荷場での共同選果により、地元市場をはじめ、関西、中京の市場へ出荷されています。
【品種】
夏つかさ、T-392、夏天下、YRてんぐ、快調、快進2号、打木源助
【効用】
タカジアスターゼをはじめとする消化酵素やビタミンC、食物繊維など内臓を整える役割をする成分が豊富です。カロテン、ビタミンA、C、カルシウムなどが多く含まれており、体力や抵抗力をつけるための成分が豊富であると言われています。

野菜 きゅうり

【産地】
安原地区、崎浦地区、
花園地区
【出荷時期】
3月下旬～10月中旬



【栽培の概要】
栽培の歴史は、藩政時代からと非常に古く、砂丘地の温室やハウスで3月下旬から出荷の半促成栽培や平坦地での6月中旬から出荷の早熟栽培、7月中旬から出荷の露地夏秋栽培が行なわれ、県内市場へ出荷されています。
【品種】
半促成品種 ハイグリーン21
早熟トンネル品種 貴婦人ニュータイプ
露地夏秋品種 ときわ北星
【効用】
ビタミンCが多く、カルシウム、ナトリウムを含み身体のバランスを整えるとともに、利尿作用があります。

果物 なし

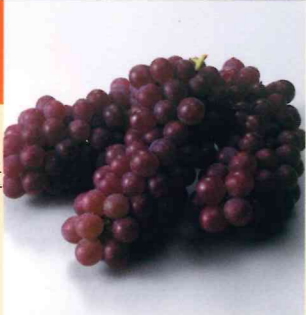
【産地】
崎浦地区、浅川地区、
鞍月地区、河北潟
【出荷時期】
8月上旬～10月下旬



【栽培の概要】
市街地に近い崎浦地区（館山町、館町、錦町、大桑町）、浅川地区、鞍月地区などで栽培されています。18世紀末の登場以来全国的に栽培されており、品種数も多く、主に果皮の赤（茶）色の三水（新水、幸水、豊水）と言われている赤梨系の品種を中心に、果皮の青（緑）色の強い二十世紀が、長期間に渡って地元市場をはじめ関西市場へのお荷や直売が行われています。
【品種】
新水、幸水、豊水、二十世紀、新高、鞍月、新興、明月、晩三吉、あきづき
【効用】
果実に含まれているアスパラギン酸は疲労回復に、カリウムは利尿作用による高血圧の抑制に、ソルビトールは解熱作用に、タンニンは二日酔いなどに効果的です。

果物 ぶどう

【産地】
安原地区、崎浦地区、
金城地区、薬師谷地区
【出荷時期】
6月下旬～9月下旬



【栽培の概要】
安原地区の砂丘地や崎浦地区、金城地区、市外への出耕作（松任市内ほか）などで栽培されています。作型は、早春からのビニールハウスでの加温栽培と無加温栽培でテラウエアや巨峰を主体に雨除けで栽培されています。テラウエアでは1房ごと開花期を挟んで2回のホルモン（ジベレリン）処理作業（種なし）が大変に重要な作業です。6月下旬から加温されたものから順次地元市場へのお荷や直売が行われています。
【品種】
テラウエア、巨峰、オリンピック、安芸クイーン
【効用】
糖質が多く、体力、疲労回復に効果的で、栄養補給に適しています。また、鉄、カルシウム、カリウムなどのミネラルが豊富で、貧血予防や利尿作用にも効果的です。

野菜 メロン (アールス系)

【産地】
安原地区、大徳地区
【出荷時期】
7月上旬～10月中旬



【栽培の概要】
砂丘地を中心にパイプハウスで、4月上旬から定植の半促成栽培の春作型と7月下旬からの抑制栽培の秋作型があります。交配はミツバチ交配で12節～15節に着果させ、形の良いもの1果残し、他は摘果します。収穫は、交配後55～60日で収穫できます。果実の表面のネットを美しく出すため、温度やかん水の管理に苦労しています。出荷方法は集出荷場での共同選果により、県内市場へ出荷されています。
【品種】
アールスナイト、ベネチア
【効用】
カリウム、カルシウム、マグネシウムなどのミネラルをはじめ、最近話題のGABA（γ-アミノ酪酸）も含まれ、高血圧などの生活習慣病の予防に効果があると言われています。

野菜 トマト

【産地】
安原地区、粟五地区、
米丸地区、河北潟
【出荷時期】
6月下旬～12月上旬



【栽培の概要】
栽培の歴史は、大正時代が走り、戦後の需要増加とともに栽培が伸びてきました。栽培方法も6月下旬から出荷の露地夏秋栽培から8月下旬から出荷のハウス抑制栽培へと変わってきました。ハウス抑制栽培では県内市場をはじめ、関西市場へも共同出荷されています。
【品種】
ハウス桃太郎、桃太郎ファイト、T-159、桃太郎ヨーク
【効用】
栄養価が高く、ビタミン、ミネラル、カリウム、ペクチンが多く含まれ、脂肪の代謝や老廃物の排出を促進します。また、リコピンは強力な抗酸化作用があり、老化防止やガンを予防すると言われています。

野菜 なす (中長なす)

【産地】
崎浦地区、三馬地区、
花園地区
【出荷時期】
6月上旬～10月下旬



【栽培の概要】
栽培の歴史は、明治時代にヘタ紫なすが、かなりの面積が栽培されていた記録がありますが、戦後の需要増加とともに中長なすの栽培が伸びてきました。現在は、市街化区域の崎浦、三馬地区の平坦地を中心に4月中旬定植で6月上旬から出荷の露地トンネル栽培が行われ、県内市場へ出荷されています。
【品種】
千両2号
【効用】
カリウム、カルシウム、マグネシウムなどのミネラルをはじめ、最近話題のGABA（γ-アミノ酪酸）も含まれ、高血圧などの生活習慣病の予防に効果があると言われています。

野菜 ほうれんそう

【産地】
三馬地区、医王山地区、
三谷地区、内川地区、
花園地区
【出荷時期】
5月下旬～11月中旬



【栽培の概要】
都市近郊野菜として、昔から市内米丸地区、泉地区を中心に栽培されていましたが、現在は、都市化で極わずかとなり、夏場の冷涼な気温を生かした中山間地域でのハウス栽培が伸びてきました。パイプハウスで連続栽培が行われ、県内市場へ出荷されています。
【品種】
アクティブ
【効用】
カロテン、ビタミンB、C、鉄、カルシウムなどを含む栄養価の高い野菜で、特に鉄分は貧血の予防に、またカロテンはがんや老化防止などに効果的です。

果物 りんご

【産地】
崎浦地区、金城地区、
小坂地区、富樫地区
【出荷時期】
7月中旬～11月上旬



【栽培の概要】
市街地に近い崎浦地区、金城地区などの畑や傾斜地で栽培されています。近年は、作業性から高木からわい性台木による低木栽培へと切り替わってきました。収穫期の一番早い青リンゴの品種「祝」が以前はよく作られていましたが、近年は少なくなり、着色系の早い品種へと変わってきました。品種も数多く栽培されていますが、主体は晩成種「ふじ」が栽培され、非常においしいと人気が高く庭先販売による直売がほとんどで、あまり市場へは出荷されていません。
【品種】
ふじ、つがる、さんさ、陽光、千秋、祝、王林、紅玉、秋星
【効用】
果実に含まれているアスパラギン酸は疲労回復に、カリウムは利尿作用による高血圧の抑制に、ソルビトールは解熱作用に、タンニンは二日酔いなどに効果的です。

果物 もも

【産地】
崎浦地区、浅川地区、
富樫地区
【出荷時期】
7月下旬～8月下旬



【栽培の概要】
市街地に近い崎浦地区、浅川地区、富樫地区などの畑や傾斜地で栽培されています。現在の品種は、中国より明治時代に導入された水蜜桃をもとに育成された品種で、早生種、中生種、晩生種に分けられます。その中でも白鳳が生産量も多く中生種の代表と言えます。崎浦地区のものは、集出荷場での共同選果により、他の地区のものは個選で地元市場へ出荷されています。
【品種】
日川白鳳、あかつき、勸助白桃、山根白桃、紅清水、中津白桃、川中島白桃、千曲
【効用】
果実に含まれているアペクチンは便秘の予防に、カリウムは利尿作用による高血圧の抑制に、また、最近では糖尿病や高脂血症にも予防効果が高いことが確認されています。